

新高等学校学習指導要領における 指導のポイントと留意点

文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官

西村 修一

学校教育法には、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならないと規定されている。

また、高等学校学習指導要領には、教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項として、生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実することが示されている。

教科商業科では、こうしたことや教科目標を踏まえ、経済社会やビジネスの具体的な事例を取り上げて生徒に考察や討論を行わせる指導、実践的な力や協調性を育むグループなどでの活動、商品開発など創造的な活動を行わせる指導など、受け身ではなく生徒自らが考え行動する様々な指導を充実させることが求められる。

学習指導要領の改訂は、単に指導する内容の何がなくなくなり何が追加されたのかというところに焦点を

当てがちであるが、言語活動を取り入れるなど指導方法の転換を図るとともに、学習評価を工夫するなどして、授業を改善することが求められていることに注目することが大切である。教科書をあたかも検定試験向けの参考書であるかのように利用する授業、検定試験用問題集を中心として展開する授業、商業教育で目指す人材像が「検定試験に合格できる人材」であるかのような授業は改める必要がある。学問的に高度な知識や技術を習得していても、実社会で活用する能力を併せ持っていなければ、それを生かすことはできない。また、相手の意見を聞き、それを踏まえて自己の考えを伝える力、倫理観や遵法精神などを身に付けていなければ、経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人とはなり得ない。

商業高校の統廃合が進むなど、商業教育は厳しい状況に置かれている。その原因を、商業教育を取り巻く社会的な環境に見いだそうとしても問題の解決にはつながらない。先生方一人一人がこれまでの授業を振り返り、何が課題でどう改善すべきかを考え、自分なりの答えを出して授業改善に取り組み、一時間一時間の授業で勝負することが必要である。

も く じ

| | | | |
|--------------------------------|----|--|----|
| 新高等学校学習指導要領における 指導のポイントと留意点 | 1 | 電子商取引(E C)企業が求める人材とは | 16 |
| 指導のポイントと留意点 | | 東日本大震災津波から生まれたつながりと絆 | 20 |
| 『ビジネス基礎』 | 2 | ビジネス(商業)教育の魅力を発信し、 ビジネス(商業)教育の課題に対応する | 22 |
| 『簿記』 | 4 | 全商会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析 ～改訂のポイント～ | 23 |
| 『情報処理』 | 6 | 日本簿記学会第29回全国大会 「高校簿記教育懇談会」のお知らせ | 24 |
| 激変環境下の会計を理解するための特別講義 第1回 | 8 | | |
| 平成26年度新課程用 教科書の横顔 | 12 | | |